

港のたより



(一社) 寒地港湾技術研究センター
COLD REGION PORT AND HARBOR ENGINEERING RESEARCH CENTER



多くの国際線が就航する新千歳空港 (提供:北海道開発局札幌開発建設部)

Contents

港湾ニュース

- 「北海道マリンビジョン21コンテスト2015表彰式」について 2
- 平成27年度全建賞受賞
「苫小牧港西港区-9m 耐震強化岸壁整備事業」 4
- クルーズ船 利尻島 沓形港に停泊 5
- 平成28年度 寒地土木研究所一般公開開催報告 7
- 釧路港港湾計画の軽易な変更
—西港区第1埠頭地区における土地利用計画の変更— 8

シリーズ

- 地域での「みなとオアシス」の取り組みについて vol. 9 9

センター通信

- 「日中韓北極セミナー」開催 11
- 「第2回 CPC 交流セミナー」開催 11
- 助成事業報告 12
- 第1回広報委員会の開催について 14
- 北極海航路通信 創刊号 発行 14
- メールアドレス登録へのご協力をお願い 15

お知らせ

- 「平成29年度 自主調査研究テーマ募集」のご案内 15
- 第3回 CPC 交流セミナー開催のご案内 [予告](#) 16
- 編集後記 16

vol. 118
2016.10.5

NEWS 港湾ニュース

■「北海道マリンビジョン 21 コンテスト 2015 表彰式」について

北海道開発局 農業水産部 水産課

1 はじめに

平成 28 年 7 月 13 日に「北海道マリンビジョン 21 促進期成会」（以下、「期成会」という）の総会が、ホテルポールスター札幌にて開催されました。

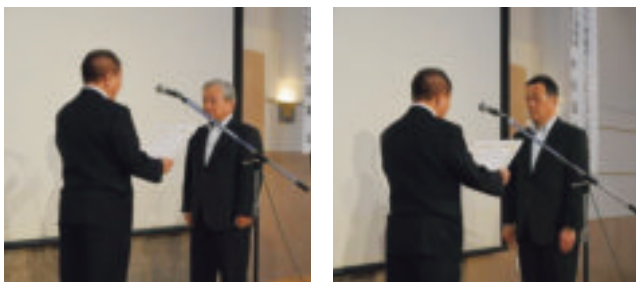
この総会に併せて、「北海道マリンビジョン 21 コンテスト 2015」の表彰式を執り行いましたので報告します。

2 北海道マリンビジョン 21 コンテスト表彰式

各地域で策定された地域マリンビジョンの実現に貢献する優れた取組を表彰し、取組の更なる推進や他地域への活動の普及を図るため、期成会が主催となり「北海道マリンビジョン 21 コンテスト」を平成 20 年度から開催しています。北海道開発局はこの取組について



総合部門：根室地域（歯舞地区）



個別取組部門：大津地域（左）、積丹地域（右）
表彰状授与の様子

後援しています。

今回、第 8 回目となるコンテストでは、総合部門（北海道開発局長賞）に根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会（4 回目）、個別取組部門（期成会長賞）に積丹地域マリンビジョン協議会（2 回目）と大津地域マリンビジョン協議会（初）が受賞し、それぞれ表彰状が授与されました。

受賞の概要

●根室地域（歯舞地区）

歯舞ブランド品の販売促進のため、地元のお祭りのほか関東・関西圏で PR を図り、歯舞ブランドの先駆けである「はほまい昆布しょうゆ」を使用した焼きおにぎりを大手コンビニエンスストアと連携し、期間限定で販売しました。また、観光遊覧船の運航は、道内外のほか海外からも乗船者があり、乗船した愛鳥ファンや観光客から好評を得ています。さらに、修学旅行誘致事業では、漁業者宅で民泊しながら漁業体験を通じて漁業を身近に感じてもらう取組や、漁協女性部による料理講習会を開催して消費拡大を図るほか、SNS を活用した情報発信を行うなど、地域と水産業全体での取組を基礎として力強い継続力を持った活動であることが評価されました。

●積丹地域

自然環境を利用しながら夏期だけに依存しない通年型観光化へ向けて、自然回帰型のサケ資源増大に向けた簡易魚道の設置、地元の海を育む森林保全活動や、早春のさくらますの保護水面の PR 活動は観光シーズンの延長につながり、水中展望船の運航期間延長は交流人口の増となっています。また、市場に流通しない規格外の甘エビを使い地元菓子店と協力して開発した商品（えびサブレー）は、新たな積丹のお土産として好評を得るなど、地域が一体となった施策とするため、マリンビジョン協議会の構成員のみならず、町内の各

種団体等と連携して幅広く取り組んでいることが評価されました。

●大津地域

大規模災害発生後も漁業生産活動を継続していくため、東日本大震災の被災状況を検証し、業務継続計画(BCP)を作成しました。作成にあたっては、大津地域マリンビジョン計画と連携、補完しあうことで、地域漁業生産の継続の実現を図るため、常に浜のニーズを把握し、できることから前提としているほか、最悪の人的被害も想定し、残された者で対応可能となるよう連絡先を常備し、担当者不在にも対応できるよう工



根室地域（歯舞地区）



大津地域



積丹地域
受賞地域の取組事例報告の様子

夫を行うなど、今後も漁業地域の保全を行う取組の発展性が見込まれるものとして評価されました。

なお、受賞地域の概要と選定理由については、北海道開発局ホームページでも公開しています。

(http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_zigyo/mv/contest/contest_2015_kekka.pdf)

表彰式の後、受賞した3地域の協議会から取組の事例報告を行いました。

3 報告、講演会

総会の後、報告と講演会を行いました。

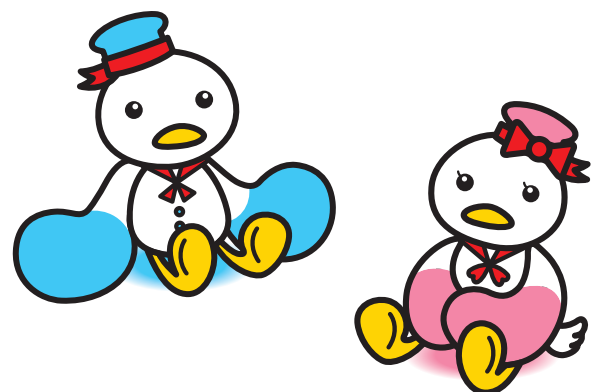
報告は、開発局水産課から「地域マリンビジョン取組の推進に向けて」と題して、これまでの取組状況から見えた課題に対して、取組の推進に向けた見直しの検討を行っていくことの情報提供を行いました。

講演会は、中央大学研究開発機構の片石温美准教授から「女性の視点を活かした地域マリンビジョンの推進」と題して講演をしていただきました。

開発局が開催している「マリンビジョン女性交流会議」の目的とこれまでの活動経過の報告、昨年度の女性交流会議の中で出された意見を紹介しました。

意見の一部を紹介しますと、漁港内では女性も多く活動していることから、今後漁港整備を進めていくには、施設検討段階から積極的に女性を入れて説明・意見聴取する場を設けることで、女性ならではの視点を把握できるため有効である。また、女性の視点による意見を取り入れた整備(ソフト・ハード)が行えると、ひいては後継者やお嫁さんの確保にもつながるといった意見が出されていました。

このような意見を踏まえ、女性の視点による意見を地域マリンビジョンへ取り込み、取組を推進することが重要と考えられるため、フォローアップ委員会を活用しながら、地域の取組状況を確認し、取組が推進されることを期待していますと講演を締め括りました。



平成 27 年度全建賞受賞 「苫小牧港西港区－9m 耐震強化岸壁整備事業」

室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務所

「苫小牧港西港区－9m 耐震強化岸壁整備事業」は、老朽化した岸壁の更新に合わせて、耐震強化を図ることで、大規模地震時における物流維持が可能となった点および耐震強化を図るための地盤改良において、石炭灰を有効活用することで、建設コストを削減した点が評価され、平成 27 年度全建賞をいただきました。

苫小牧港は国際拠点港湾で、北海道全体の港湾取扱貨物の約 5 割、外貿コンテナ貨物の約 7 割を扱っており、北海道の経済、産業を支える重要な港です。西港区西ふ頭は、RORO 船航路の拠点として、週 7 便が就航し道外との物流に重要な役割を果たしています。しかしながら、老朽化の進行や岸壁背後のスペース不足により、利便性の改善が求められていました。

当該施設は、昭和 36 年～ 43 年に建設された施設で老朽化が著しく、上部コンクリート内部の鉄筋の腐食

とともに本体工の矢板の継手が外れ、土砂の流出が確認され、施設倒壊の危険性がありました。また、建設当時は一般貨物対応(紙・機械類など)の施設として整備されたため、岸壁直背後に上屋が存在し、エプロン幅が狭くトレーラの旋回や自動車の積み卸しスペースが不十分で非効率な荷役を強いられていました。このため、老朽化した岸壁の更新に合わせて上屋を撤去してスペースを確保し、さらに大規模地震時における緊急物資の輸送機能の確保を目的として耐震強化岸壁への整備を行いました。

工事では、岸壁法線の前出しと上屋の撤去によるエプロン拡幅、地盤改良材として苫東厚真火力発電所により発生した石炭灰を添加剤として使用したことでセメント量を削減し、改良土には建設発生土も有効活用して建設コストの約 30%を削減しています。

内貿貨物量が全国 1 位の苫小牧港には、現在週 45 便の RORO 船が就航し、そのうち約 4 割の船が西港区西ふ頭に就航しています。本事業で整備された施設を活用し、大規模地震などの災害時でも、道産品や道民生活に必要な製品の安定的な輸送が確保され、北海道の経済・産業の振興に大きな役割を果たすことが期待されています。



整備前：狭隘で見通しが悪い



整備後：荷役効率・安全性が大幅に向上



苫小牧港西港区西ふ頭施工状況（地盤改良）

クルーズ船 利尻島 沓形港に停泊

利尻町 まち環境整備課

沓形港は、日本最北の都市稚内から、南西へ約50kmを隔てた利尻島の西海岸に位置する地方港湾で、フェリーなどによる物資流通拠点や地域の基幹産業である水産業の基地として、重要な役割を担っています。

さらに、クルーズ船の寄港に際して利用されている新港第4岸壁(-7.5m)は、町内唯一の耐震強化岸壁で、離島生活の安全の確保のため、防災拠点としても重要な役割を担っております。

本港は、優良な漁場である武蔵堆に近接しており、大正10年に漁港としての建設が始まり漁船漁業の基地として発展してきましたが、当初は海難事故が後を絶たず、漁業機能の強化が主要目的であったと言われております。

戦後は経済の復興とともに、離島と本道を結ぶ物流拠点として整備が進められてきましたが、近年では日本海クルーズの寄港地としてクルーズ船が入港しており、平成27年度は7回のクルーズ船入港実績があります。



沓形港全景

●ばしふいっくびいなす入港

平成28年6月17日の早朝、今年度第1号のクルーズ船「ばしふいっくびいなす」(26,596トン)が、沓形港に入港しました。

この日は生憎の曇り時々雨の空模様となりましたが、スムーズに沓形港新港第4岸壁に着岸しました。

平成28年度の沓形港最初のクルーズ船入港となった「ばしふいっくびいなす」は、これまで何度も沓形

港に寄港してくれているクルーズ船で、本年度も4回の入港を予定していますが、6月17日はこれまでと違い、早朝に入港し、翌日正午に出港する夜間停泊のある寄港となってしまいました。

寄港地での1泊停泊は珍しいようですが、利尻島や、礼文島の最北の島をゆっくりと観光できるスケジュールを取れることへのお客様の希望や停泊してもクルーズの日程、航路の調整を図ることのできる地理的好条件があり、今回の停泊が実現しました。

クルーズ船の入港に際しては毎回町を挙げて歓迎し、出迎えや「沓形港クルーズ船見送り隊」を中心としたお見送りを実施し、着岸した岸壁では地元の漁協や水産加工業者などが露店を出し、にぎわいのある港でのおもてなしを目指していますが、今回の停泊に際しては更に、夜間での交流イベントも企画されました。

午後6時30分から町の公式マスコット「りしりん」を前面に出し、PRも兼ねて「りしりん祭り」と題した、乗船客、クルー、地域住民との交流を目的としたイベントがスタートしました。

交流イベントの会場として停泊岸壁に特設ステアを設置し、地元中学生による太鼓演奏、島に伝わる伝統芸能「麒麟獅子の舞」披露、もちまき大会や島の特産品が当たる抽選会などが行われました。また、マスコットの「りしりん」を中心に乗客と住民と一緒に「りしりん音頭」を踊り交流を深めました。

祭りのフィナーレでは、「レーザーパフォーマンス」による船体のライトアップが行われ、会場は歓声と拍手に包まれました。



「沓形港クルーズ船見送り隊」による見送りの様子

●につぼん丸入港

平成 28 年 7 月 9 日 13 時ころ、クルーズ船「につぼん丸(22,472 トン)」は、予定より 1 時間遅れて沓形港新港第 4 岸壁に着岸しました。

この日のにつぼん丸は、今年 2 回目の入港で、予定では正午入港、翌朝 5 時に出港する夜間停泊となっていました。

この日の空模様は、前日からの雨が昼過ぎまで残る予報となっていましたので、予定している停泊イベントの開催も危ぶまれていました。また、海上も少しうねりがあり、入港も危ぶまれておりましたが、なんとか 1 時間遅れで無事入港してくれましたので、船長はじめクルーの皆さんに感謝です。

入港後、乗客の多くは岸壁に待機しているバスに乗りし島内観光に出かけましたが、岸壁では夕方から始まる今年 2 回目のクルーズ船歓迎イベント「りしりん祭り」の準備が、小雨の中進められていきました。

沓形港は丸い利尻島の西側に位置しており、島の中央にある利尻富士(利尻山：標高 2,121 メートル)により、この時季東寄りの風が吹く日は天候が良くなる傾向にあります。

この日は、午後から東寄りの風なるため、祭りのスタッフは天候の回復を祈りながら準備作業を進めていきました。

午後 6 時 30 分「りしりん祭り」がスタートし、恒例のもちまき大会や島の特産品が当たる抽選会などが行われました。また、利尻町観光大使のシンガーソングライター「流(ながれ)」さんのステージライブが行われ、会場を大いに盛り上げていただきました。

この日の歓迎イベントでも乗客、クルー、住民と一緒に「りしりん音頭」を踊りましたが、流れさんは「りしりん音頭」の作曲者であり、マスター音源



「りしりん祭り」の様子

の歌声も担当していただいているので、流さんの生の歌声での踊りで、会場は更に盛り上がりました。

●停泊イベントを終えて

沓形港の平成 28 年度のクルーズ船入港は 10 回予定され、「ばしふいっくびいなす」4 回、「につぼん丸」6 回となっており、入港回数としては、北海道の港湾では上位に数えられているようです。

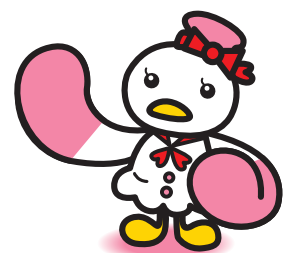
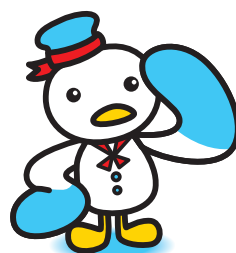
クルーズ船の寄港には、町を挙げての誘致、おもてなしに心掛けてきている成果が少しずつ現れてきている感じですが、今回初めての経験となる停泊イベントの実施を通して、良かった点、改善する点を検証していく必要があるのも事実です。

乗客の多くのは、「一生に一度の利尻島の旅」かもしれませので、この旅を思い出に残る素晴らしいものにしていただくためのお手伝いをしているという自負を持って、心を込めたおもてなしを続けていくことが大切だと感じています。

今後も、町を挙げてクルーズ船の誘致を進めていきますが、入港回数の増はもちろんですが、船の数は現在 2 隻に留まっておりますので、地域の魅力発信、ポートセールスに努め、沓形港へ入港するクルーズ船の種類が増えるよう誘致を進めていきことも必要と考えています。



「につぼん丸」と定期船のカーフェリー



■ 平成 28 年度 寒地土木研究所一般公開開催報告

国立研究開発法人 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム
水産土木チーム

平成 28 年度寒地土木研究所の一般公開を 7 月 1 日（金）・2 日（土）の 2 日間にわたり開催しました。2 日（土）は降雨となり、あいにくの天気でしたが昨年を上回る 1,188 人のお客さまにご来場いただきました。今年も各研究チーム・研究ユニットが工夫を凝らした研究内容の紹介により、子供達だけでなく大人の皆様方にも、それぞれのコーナーで実験・体験・発見を楽しんでいただけました。

寒冷沿岸域チームでは『津波を知ろう！ ～高波・高潮との違い～』をテーマに、津波模型による体験水槽、小型水路による高波実験、色々なブロックで遊べるコーナー、本物の流水の展示、研究紹介の放映などを行いました。津波を発生させることのできる模型コーナーでは、子供達だけでなく、大人にも大盛況で、体験を通して津波についてより理解を深めていただきました。また、通常触れることのできない本物の流水を展示したコーナーでは貴重な体験ができたと大人気でした。さらに当研究チームで開発した津波による海水の破壊シミュレーションの放映に来場者は感心し、研究所をより身近に感じていただけました。

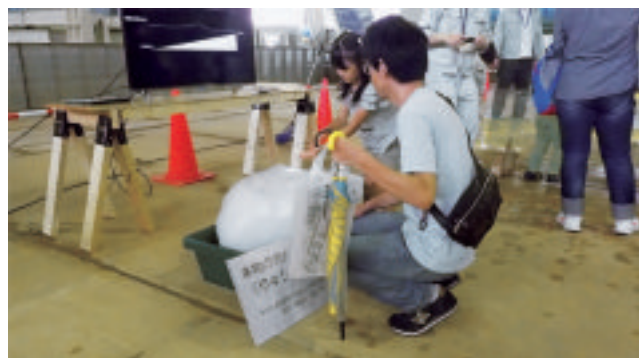


水産土木チームでは『さわって・見て・学ぼう「北の海の生きものたち！！」』と題して、ウニやナマコ、ホタテやホッキガイなど、北海道沿岸域に生息する海洋生物を集めたタッチプールを設けました。普段、生きた海洋生物に直接触れることが少ない子供達にとって貴重な経験であり大人気でした。さらに、アサリによる水質浄化の実演や港内の水質・底質の浄化が期待されるホタテ貝殻礁の展示、これまで行ってきた研究成果を取りまとめたビデオ放映を行いました。来場者の方々は展示物を興味深く見ていただき、理解を深めていただけました。

来年も多くの皆様のご来場をお待ちしております。



大盛況の津波を発生させることのできる模型コーナー



本物の流水に触れることのできるブースは大人気



水産土木チームの展示物を興味深く見る来場者たち



海洋生物を直接触れるブースは子供たちに大人気

釧路港港湾計画の軽易な変更

—西港区第1埠頭地区における土地利用計画の変更—

釧路市水産港湾空港部 港湾計画課

●はじめに

釧路港は、北海道太平洋側に位置し、我が国の食料供給基地である東北海道一円を背後圏に有する、地域の暮らしや産業を支える物流拠点港湾である。

釧路川河口に広がる東港区は、釧路フィッシャーマンズワーフ MOO や釧路市観光国際交流センターなどを拠点に一年を通して様々なイベントが開催され、また、耐震・旅客船ターミナルは、地域の防災と賑わいの拠点としての活用が図られている。

新釧路川の西側に展開する西港区は、港湾物流の中心であり、現在、西港区第2埠頭地区において、国際バルク戦略港湾として、国際物流ターミナルの整備が進められている。

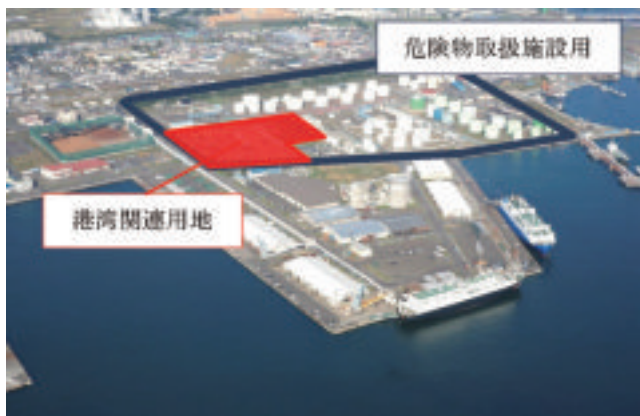
●土地利用上の課題と対策

西港区第1埠頭地区は、昭和49年に埋立造成されており、チップ、紙・パルプや石油製品等の危険物等を主に取り扱っている地区である。

当該地区は、約30haの危険物取扱施設用地を有しているが、その一部については、用途の性格上、土地利用が制限されることから、有効活用が図られていない用地があり、今後の利活用も未定であった。

一方、第2埠頭地区において、国際物流ターミナルの整備が進んでおり、今後、一体的な土地利用が期待される場所である。

こうした状況から、当該地区の有効活用を図るため、危険物取扱施設用地の一部(3.9ha)を港湾関連用地へと変更する土地利用計画の変更を行うものである。



写真：西港区第1埠頭地区

●釧路港港湾計画の軽易な変更

平成28年7月に開催した「第45回 釧路市地方港湾審議会」において、釧路港港湾計画の軽易な変更について諮問し、可と答申されました。

これを受け、港湾法の規定に基づき、港湾計画の変更概要を告示するとともに、国土交通大臣へ港湾計画を送付しております。



図：釧路港港湾計画図

表：土地利用計画

用途	変更前	変更後
危険物取扱施設用地	30.1ha	26.2ha
港湾関連用地	25.1ha	29.0ha

なお、「釧路港臨港地区の分区の変更」についても同時に諮問しており、保安港区から工業港区へと変更を行っている。

●おわりに

今回の釧路港港湾計画の軽易な変更によって、土地の有効活用が図られるものと期待しております。

今後も、社会情勢の変化等に対応した港湾運営及び課題の解決に向けた取組等を進めていきたいと考えております。